

臨床研究「膠芽腫に対する陽子線治療 リスク別照射方法の検討」について

筑波大学附属病院放射線腫瘍科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

膠芽腫に対する現在の標準治療は、外科的切除＋術後放射線治療(60Gy/30回)＋化学療法とされている。しかしながら、その治療効果は十分とは言えず標準治療の生存期間中央値は1.0-1.5年程度とされている。陽子線治療は、通常のX線治療と比較して優れた線量集中性を有している。当施設では、この優れた線量集中性を活かして、膠芽腫に対して96.6GyE/56回の高線量術後照射を行い生存率向上の可能性を示した(生存期間中央値1.7-1.8年程度)。膠芽腫の治療成績は、腫瘍の摘出率、年齢、Performance statusなどと有意な相関があるとされている。当院では、膠芽腫に対する陽子線治療は、病変の局在、年齢、Performance statusに応じて、照射方法を大きく3パターンに分けて選択している。本研究では、膠芽腫に対する陽子線治療の照射方法選択の妥当性を明らかにすることが目的である。

② 研究対象者

2019年4月～2024年3月に筑波大学附属病院で膠芽腫に対して陽子線治療を施行する患者

③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2027年3月31日まで

④ 研究の方法

日常診療で得られた診療情報より膠芽腫に対する陽子線治療の効果・有害事象を照射方法別に比較する。データは氏名や住所、カルテ番号などの個人を特定する情報とは切り離した情報のみ使用する。

⑤ 試料・情報の項目

MRI画像での再発、有害事象の有無。診察所見上の全身状態の変化や有害事象の有無。

⑥ 試料・情報の第三者への提供について

提供なし

⑦ 試料・情報の管理について責任を有する者

水本斉志 筑波大学附属病院 放射線腫瘍科 講師

⑧ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑨ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：放射線腫瘍科 担当 水本斉志

電話；029-853-7100（平日9～17時）